

きずな

第 7 3 号
聖 パ ウ ロ
協 力 者 会
九州地方区

恐れることはない。
わたしはあなたたちとともにいる。
ここから照らそう。
悔い改めの心を保ちなさい。

主のご復活、おめでと〜うございます。

福岡修道院院長 永富 久雄神父

ご復活祭といえ、出会いの喜びの祭日と言えるのではないのでしょうか。復活されたイエスさまと弟子たちとの再会の喜び、そしてなんといても復活されたイエスさまとの出会いの喜びを、最初に恵まれたマグダラのマリア、ヤコブの母マリアの喜びは、どんなに大きかったことでしょう。

少し長いですが、マタイ福音書から、そのところの記事を引用してみましよう。



復活の朝。安息日の後、週の第一日が明けそめるころ、マグダラのマリアともう一人のマリアとが、墓を見に来た。すると大きな地震が起こった。それは主の使いが天から下って石に近づき、それをわきへころがして、その上に座ったからである。その姿は、いなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった。見張りの人たちは、恐ろしさのあ

まり、ふるえあがり、死人のようになった。み使いは、婦人たちに言った。「恐れることはありません。あなたがたは十字架につけられたイエスを探しているのですが、ここにはおられません。かねて言われていたとおり、復活されたのです。さあ、入って、イエスが置かれていた場所をごらんください。そして、急いで行って、弟子たちにこう告げなさい。『イエスは死者のうちから復活されました。あなたがたよりも先にガリラヤに行かれます。あなたがたは、ここでイエスに会えるでしょう』と。わたしが伝えることは、これですべてです」。婦人たちは恐れながらも大喜びで、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走っていった。



最近といっても、去年一人、そしてまた今年一人と、身近な人達が、天国へと旅立っていきました。去年の一人とは百村神父さん、そして今年にはブラザー牧山忠治さん。この二人とも福岡のパウロ会で院長をしていた人たちです。この復活祭には、天国で先輩たちと出会い、その喜びに大いにひたっているのではないのでしょうか。

私たちも、この主のご復活の祭日に、近くの人たちと出会うの喜びを、共に分かち合います！

主のご復活、おめでと〜うございます！

故ブラザー牧山忠治さんとの思い出

福岡地区会員 尾下 良次

「マキさくらん」ブラザー牧山忠治さんと親しい人は、こう呼んでいました。マキさんとの最初の出会いはまだ東京赤坂に修道院がある頃、私は福岡・小笹修道院（現在は福岡・赤坂に移転）から異動して、高校入学と同時に東京・赤坂修道院の志願者となりました。

新入生は司祭コースと修道士コースに分かれ、私がいた修道士コースは、午前中に高校の授業、午後は使徒職と呼ばれるパウロ会の宣教活動の一環である出版事業の中の印刷機械に配属されました。最初は先輩ブラザーの助手として、数年後には一台の機械を任せられました。

上司である工場長がブラザー牧山さんです。その頃は今は違って大勢の志願者・若いブラザー・司祭たちがいて、しかも使徒職としての出版活動も多忙でした。工場長としても大変だったようです。納品が迫られている時は夕食後も工場に駆り出されての残業もたまに・・・。

沢山の思い出があります。その中の一つ、月に何回か印刷用紙を積んだ大型トラックが工場の出入り口に横付けされます。そのころはリフトカーがなかったので、私、マキさん、そして「シュツシュ」(故人)と呼んでいた同級生の三人と、

担いでトラックから工場内倉庫に運びます。二〇キロくらいある紙束を自然と力が入って二束、三束とそれぞれが增量して運びます。三人とも体格がいいので暗黙の力自慢(若かった？笑)。

八王子修道院に移転後は、更に設備は増強され、工場長のマキさんも更に多忙でした。ここでのマキさんの思いでも尽きません。

近年では福岡修道院での思い出があります。小笹から赤坂へ移転して間もないころ、退会して久しぶりに修道院を訪問していた時に、マキさんが福岡修道院の院長に就任されました。懐かしさもあって、マキさんに会うため修道院を度々訪問していました。いつのまにか協力者会の集まりに参加する機会が増え、ある日、大村・植松教会で協力者会の集まりがあるからと誘われて参加することになりました。十数人いたでしょうか、殆どがパウロ会を退会された先輩たちでした。会議が始まり協力者会の九州地方区代表を決めることになりました。いきなり議長に「尾下君に次期代表をお願いします」と言われ全員が拍手・・・なに聞いてないよ・・・先輩たちには断ることも出来ず渋々・・・なんてことない、マキさんによつていつの間にか協力者会会員にもなっていたことが判明した次第でした。

お陰様でマキさん、いやつ、牧山院長のお陰と力添えで、任期を超えての代表を務めさせて頂いたことに感謝です。

九州地方区代表時代の一番の思い出は、何と云ってもマキさんと二人で企画した、協力者会の五島への二泊三日の巡礼旅行です。マキさんと何回も打合せを行い、時間が経つにつれ参加希望者も増えてきました。手っ取り早く旅行会社ツアーを組んで貰うことにしました。格安にするために福岡市内の旅行会社に連絡しては、二人で旅行会社巡りです。お陰で無事に終わり、参加者にも喜ばれて楽しい思い出となりました。

最近の思い出。去年の十二月のある日、サンパウロ福岡で用事を済ませ、帰ろうとして駐車場を出たすぐに、目の前にマキさんが立っていました。ビックリして「マキさくん、久しぶりー。元気そうですね」「おー、元気じゃないよ。どうしている・・・」とたわいもない会話をして別れたのが最後となりました。お別れに来てくれたのかな？

この頃、次々と天に召されるパウロ会員たち。それぞれに身内だったかのように思い出が頭をよぎります。

「マキさん、今度は天に、いつの間にか私の椅子も用意されているとうれしいな・・・その時は、よろしく」
永遠の安息をお祈りします。



第6回協力者会全国大会参加者の記念写真
2005年7月17日長崎カトリックセンターにて

報告

総会

一月十三日(土)

※詳細は議事録(別紙)を参照。

祈りの集い・「家庭の友」読書会

二月十日(土) 牧山忠治修道士追悼ミサ

三月十日(土) 十字架の道行き

役員会

二月十日(土) きずな編集会議

三月十七日(土) きずな発送準備

鈴木神父様による聖書勉強会

一月十七日(水)

三月二十日(火)

サンパウロ出張販売協力

三月四日(日) 田平教会

三月二五日(日) 笹丘教会

司祭叙階五十周年 山口 輝男 神父

誓願宣立五十周年 七種 一一 修道士

三月十九日(月) 東京若葉修道院

今後の予定

祈りの集い・「家庭の友」読書会

四月十四日(土) 福岡修道院

五月十二日(土) 北九州湯川教会

七月十四日(土) 福岡修道院

役員会

六月二三日(土) きずな編集会議

パウロ家族協力者会創立百周年記念

結びのミサ

日時 六月九日(土)

会場 浦上教会小聖堂

長崎カトリックセンター

プログラム

九時半〜 受付

十時〜 導入(一年間の振り返り)

十時半〜 感謝ミサ

司式 鈴木信一神父

十一時半〜映画(未定)

十二時半〜祝賀会

十五時 解散

※後日案内状(往復はがき)を送ります。

訃報

アウグスチヌス ブラザー牧山 忠治
二〇一八年一月二三日(享年八十三歳)



聖パウロ修道会会員

生きているのは私ではなく、
キリストこそ私のうちに生きておられるのです。
(ガラテヤの信徒への手紙2章20節)

アウグスチヌス
牧山 忠治

広報より

今年の勉強会は、雑誌「家庭の友」を題材に、他の地区にも足を延ばして行いたいと考えています。五月は北九州地区で行う予定です。北九州地区の皆さん、よろしくお願ひします。

会計からのお願ひ

今年度分協力者会会費未納の方は、納付のご協力をお願いいたします。前回同封している振込用紙をお使いください。年会費三千元です。よろしくお願ひいたします。